

上関地点 2025年度 環境監視調査結果について(報告書の概要)

水質調査結果は、管理目標値を満足していた。

陸生、海生生物については、過去の調査結果と比較して顕著な変化は見られなかった。

項 目		調査時期	調 査 結 果 概 要		
水 質	陸域工事 排水の水質	月1回	水素イオン濃度、浮遊物質濃度ともに管理目標値内であった。		
			項 目	調査結果	管理目標値
			水素イオン濃度	6.9～7.7	5.0以上9.0以下
			浮遊物質濃度 (日平均値)	12mg/L 以下	150mg/L 以下
陸 生 生 物	ハヤブサ	4月:2回/月 5月:2回/月 6月:2回/月 2月:1回/月 3月:2回/月	4月に抱卵行動を確認したが、その後、ヒナおよび巣立ち後の幼鳥を確認できなかったことから、繁殖は失敗したと考えられる。 なお、親鳥は各月で確認した。		写真 1
	植生	年1回 7月22、23日	イヨカズラを6箇所18株、ジュウニヒトエを34箇所197株、キンランを1箇所1株、クロムヨウランを1箇所2株、ビヤクシンを1箇所1株確認した。		写真 2
海 生 生 物	潮間帯生物	年2回 4月16、17日 10月7、8日	植物ではハバノリ、ヒジキなど62種、動物ではアマガイ、イタボガキ科など51種を確認した。 【確認種類数】・植物:春58種、秋32種 ・動物:春47種、秋40種		写真 3
	海藻草類		ワカメ、ジョロモクなど63種を確認した。 【確認種類数】春56種、秋29種		
	底生生物		アカウニなど6種を確認した。 【確認種類数】春6種、秋4種		
	スナメリ	3月～10月※ ¹ (週1回・計32日)	確認回数は計97回、延べ380頭を確認した。		写真 4
	カクメイ科等の貝類	年4回 5月12～14日 8月4～6日 11月5～7日 2月4、5日	カクメイ科等の貝類は確認されなかった。 タイドプール※ ² 2箇所のうち1箇所は、2010年に岩盤の崩落が確認されて以降、引き続き崩落の恐れがあるため、1箇所調査を実施した。		-

※1 スナメリ調査は2025年3月から開始

※2 タイドプール:干潮時に海辺の岩場にできる潮だまり

【参考】

《環境監視計画以外の環境調査》

○ カンムリウミスズメ(写真5)

計画地点周辺海域において11回延べ22個体を確認した。

計画地点周辺海域において広く確認されたが、工事施行区域内での出現はなかった。

○ カラスバト(写真6)

鼻線島において、4～3月の各月で姿や鳴き声を確認した。

計画地点においては、10月、3月に鳴き声を確認した。

○ クロサギ(写真7)

4月、5月、9月に周辺の岩場等で1羽が確認されたが、既知営巣地の利用は確認されなかった。
繁殖は確認されなかったが、今後も引き続き生息状況を確認する。

○ ミサゴ(写真8)

鼻線島において、6月に巣立ち後の幼鳥1羽を確認したことから繁殖は成功した。
天田島では、5月にヒナ1羽を確認したが、その後の調査では親鳥・ヒナともに確認されなかった。
今後も繁殖が継続して行われる可能性があるため、引き続き生息状況を確認する。

【調査写真】

写真1:ハヤブサ



親鳥(雌)(4月8日)



親鳥(雌)(5月8日)

写真2:植生



イヨカズラ(7月22日)



ジュウニヒトエ(7月22日)



キンラン(7月22日)



クロムヨウラン(7月22日)



ビャクシン(7月22日)

写真3:潮間帯生物、海藻草類、底生生物



ワカメ(4月16日)



アカウニ(4月17日)



ジョロモク(10月7日)



イタボガキ科(10月7日)

写真4:スナメリ



(4月16日)

写真5:カンムリウミスズメ



(2月5日)

写真6:カラスバト



(9月26日)

写真7:クロサギ



(5月14日)

写真8:ミサゴ



(6月27日)〔鼻線島〕



(5月20日)〔天田島〕

環境監視委員会 委員からのコメント

【2025年度環境監視調査結果について】

項目	主なコメント
水質 (陸域工事排水)	水質調査結果は管理目標値内であり、大きな変化は見られておらず、環境保全措置が適切に実施されている。
陸生生物 (ハヤブサ)	2025年度は、巣立ちした幼鳥を確認できていないため、繁殖は失敗したと考えられるが、親鳥の生息を各月で確認しており、引き続き状況を確認すること。
陸生生物 (植生)	経年変化は過年度のデータから見ても自然変動の範囲内であり、工事のない状況においても自然要因による増減が確認されている。
海生生物 (潮間帯生物、海藻草類、 底生生物)	経年比較すると、主な出現種の上位種に変動があることから、瀬戸内海の環境も変化していると考えられるため、継続して状況を確認すること。
海生生物 (スナメリ)	スナメリの確認頭数が過年度と比較して多くみられており、瀬戸内海の環境も変化していると考えられるため、継続して状況を確認すること。
海生生物 (カクメイ科等の貝類)	カクメイ科の貝類は確認されておらず、タイドプールの水質、底質についても過年度調査の変動範囲内で、顕著な変化は見られないため、環境保全上、問題ない。

【その他について】

項目	主なコメント
クロサギ	2025年度は、繁殖は確認できなかったが、引き続き生息状況を確認する必要がある。
ミサゴ	2025年度は、鼻繰島で幼鳥の巣立ちを確認しており、引き続き生息状況を確認する必要がある。

以 上